被災地思いフル回転

チャリティカットに536人

「東日本大震災の被災地復興のため、私たちにできる支援を」と関西の美容師（スタイリスト）約百五十人とアシスタント約百五十人が七月二十五日、大阪市中央体育館（田中3）でチャリティカットサービスを実施しました。料金はワンコイン（五百円）。五百三十六人が来場。売上とカンパ合わせて八十三万九千七百五十九円が義援金として日本赤十字社奈良県支部を通じて被災地へ送られました。主催は「感動を共有し、共に生きる」を理念に活動する美容師の集まり、M's（エムズ）コネクション（渡辺佑二（ゆうじ）代表）の大阪支部。

多くの参加者とスタイリストらで溢れた「チャリティカット」＝7月25日、大阪市中央体育館大会議室で

会場の大会議室には午前十一時から午後三時まで、区内外から次々と老若男女が訪れ、揃いの黄色いシャツを着た男女美容師たちが休む暇もなくハサミと櫛（くし）を動かしていました。

◆何もしないよりはと

港新聞の案内を見て子連れで来場し、カットしてもらった坂口由紀さん（八幡屋）は「大震災の報道が少なくなってきたことと同時に、報道されない部分、つまり被災者の方々の生活が実際にはどれほど大変かがよく分からないことが気になります。今すぐ飛んでいきたいけれど、そうも出来ず、とても歯がゆい気持ちです。何もしないよりはと募金に応じたりしてきましたが、今日もこうして僅（わず）かですがお役に立てて嬉しいです」と話していました。

◆港湾の壊滅が気の毒

体育館の前を通りかかってこの催しを知ったという山下淳美（あつみ）さん(七三)（港晴）は「女性美容師さんの手で上手にカットしてもらった上（うえ）、シャンプーなどのお土産（みやげ）まで頂き、満足度百パーセントです。自分は船乗りとして四十年働き、数年前には三陸海岸へ立ち寄ったこともあるので、今回の大震災と津波で港湾が壊れ、漁業出来なくなったのが一番気の毒に思います。今日は少しでもお役に立ててよかったです」と話していました。

◆人の力はすごい！

一方、汗だくでカットを続けた井寄真唯（いよりまゆ）さん（SAKULA CHOKIchoki店のスタイリスト）は「会場でのカットだけでなく、森ノ宮駅前での募金活動、会場周辺での呼びかけ、駅からの案内なども分担してやったのですが、みな普段は美容師ですから、あんな暑さの中での体力仕事には慣れていません。でも団結力を発揮して無事終えることが出来、本当に人の力は凄い！と実感できた一日でした。暑さ厳しい中、被災地復興のためにお立ち寄り下さった皆様も、熱気ムンムンの会場で耐えて頂き、心から感謝しています」と話していました。

M's（エムズ）コネクションは平成十九年発足。全国に五支部、五十五社加盟。大阪支部（東大阪市）は今年四月にも各店内に義援金箱を設置し、約二百万円を被災地へ送りました。同組織に関する問い合わせは「SAKULA CHOKIchoki店」（磯路三―八―二四―二階、☎六五七一―八一三三）の田口代表まで。

笹を囲んで国際交流

市岡日本語教室が七夕まつり

日本で暮らす外国人にボランティアがマンツーマンで日本語を教える「市岡日本語教室」。その関係者による七夕（たなばた）まつりが七月一日夜、港区民センターで催されました。「日本で暮らす外国の人たちに日本の風情（ふぜい）を」と同教室が誕生した十六年前から続く伝統行事。外国人学習者約八十人と日本人ボランティアら約百五十人、合わせて約二百三十人が参加し、笹を囲んでの国際交流が行われました。

★浴衣を着て願い事

学習者はボランティアの助けで浴衣（ゆかた）を着る体験をしたり、短冊（たんざく）に願い事を書いて笹に飾りつけたりしながら七夕ムードを満喫。短冊には「日本語が上手になりたい」「日本語能力試験に合格しますように」などの夢や目標が日本語で書かれてありました。

願い事を書いた短冊を笹に飾りつけ、浴衣姿でご機嫌の外国人女性たち＝7月1日夜、港区民センターで

舞台では学習者たちが出身国の歌や踊りを次々と披露しました。このうちミャンマー出身女性ミョミョさんは母国のお正月「水掛け祭り」の踊り。優雅でスピード感のある動きに拍手が起こりました。最後は日本民謡隆勢（りゅうせい）会の子供たちの民謡で盛り上がりました。

舞台で「水掛け祭り」の踊りを披露するミャンマー出身のミョミョさん

市岡日本語教室は㈶大阪市コミュニティ協会港区支部協議会と市岡国際教育協会の共催で、毎週金曜日の夜七時から八時半まで港区民センターで開催。見学などの問い合わせは札葉（ふだば）さん（☎〇八〇―三八四六―二五八一）まで。

みなと麻雀大会 森川さんが優勝

「認知症予防や生きがいづくりに効果がある」（アージャン）と注目を集めている健康麻雀。その愛好者による港区最大のイベント「みなと麻雀大会」が八月一日、「マージャンひろば」（磯路三―二五―三、☎六五七四―六六四三）で開催されました。港区麻雀業組合（竹馬進（ちくばすすむ）会長）主催で三十五回目。八十～二十歳代の男女三十六人（うち女性十二人）が正午から九卓を囲んで四回戦を行ない、数時間に亘る知的な駆け引きの末、優勝は森川唯志（ただし）さん(五九)（波除）、準優勝は佐々木信（しん）さん(八六)（城東区）、三位は野村進さん(七三)（市岡）。飲酒も喫煙もなく、競技前には挨拶を交わすなど健康的な雰囲気が印象的でした。

健康的な雰囲気が印象的だった「みなと麻雀大会」

みなとタイムスリップ 団塊つれづれ草

交通科学博物館 課長 細川（ほそかわ）武志（たけし）

③

先日、市岡交差点から実家へと向かう道を自転車で走っていたら、「松栄荘（しょう）」というアパートがあった場所に「レストヴィラ弁天町」という立派な有料老人ホームが建っているのには目が点になりました。その隣の「マンモス」というパチンコ店もすでに姿を消していて、その変貌ぶりに記憶がしばし昭和三十年代前半の電車みち（みなと通）市岡元町四丁目付近を彷徨（さまよ）いました。

映画館・食堂・市場…昭和30年代みなと通

「弥生（やよい）館」「東宝八千代（ちよ）劇場」「日活第一」「市岡大映」「衆楽（しゅうらく）館」。名称は不確かですが、これは映画産業が全盛期の港区内にきら星の如く点在していた日本映画の封切館です。ほかにも港区内には「東洋劇場」「市岡キネマ」などがあり、どの映画館も個性ある手描（が）きの看板が観客を誘い、特に日活の石原裕（ゆう）ちゃんの等身大以上の巨大看板にはびっくりしました。テレビが普及するまでは娯楽の王者として映画館は大繁盛。東映の「弥生館」などは常に大入り満員。お盆興行などは立ち見客の隙間（すきま）から「笛吹童子（ふえふきどうじ）」や「新吾十番勝負」を覗（のぞ）き見する有様でした。

かつてみなと通で活躍した大阪市電㊨と2階建市電（復元車）㊧＝資料提供：交通科学博物館

創業六十五年という「赤丸食堂」が今でも健在です。小学生時分、上機嫌時の父が発する「赤丸へ行こか」の掛声には「バンザイ！」と小躍（おど）りしたものです。外食などはまれな時代です。「洋食ランチ」のライスを、苦労しながらもフォークとナイフで食べていました。

「繁栄商店街（当時は繁栄市場）」もいつも買物客で大賑わいでした。魚屋、お菓子屋、肉屋、乾物屋、果物屋に天ぷら屋。ソフトクリームをねだるため、母について市場に行ったものです…。ふと我にかえり、黄昏（たそが）の商店街を通り抜けると、瀟洒（しょうしゃ）な住宅群の中に見え隠れする古びた実家が私を待っていました。

（つづく）

働く仲間の相談所
倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも
無料
困ってませんか？
港合同（南市岡3-6-26）☎6583-4858

勉強会・打ち上げ・会食・お泊まり－等々
あらゆる集まりは地元の経営開発研修センターで
会議室5（72名、45名、16名、24名、10名）個室50（各室バス・WC・TV付）一泊朝食付5,000円
歓送迎会・各種宴会ご予約承り中！
昼食レストランも大好評！
三先1丁目6-3（港南中学校向かい）☎6574-5701
http://www.keieikaihatu.co.jp　mail:kenshu@keieikaihatu.co.jp

戦争体験 平和のために次世代へ！
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
14歳で単身満州へ渡り、酷寒の中で炭鉱労働に従事。中国内戦や悲惨な避難民生活も間近に見ながら帰国。戦後は技術職に就き、平和運動にも関わってきました。そんな体験を次世代に残したいと、写真入りで冊子にして頂きました。（港区・80代男性、総料金13万円）
田中3-3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636

スッキリ爽快！ メッチャ好評！
冷シャンプー
料金下げてもサービスアップ！
月曜出前さんぱつも好評（カット2,000円＋出張費1,000円 施設など2人以上なら出張費無料）
ご来店料金は2,500円より
磯路2-1-21 りそな銀行前 床屋カンパニー ☎6577-5225